

第3回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：平成31年2月12日（火）14:00～

場所：小浜市役所4階大会議室

1 開会

2 あいさつ

- ・福井県交通まちづくり課 西野課長

3 議事

(1) 嶺南地域の交通施策について

- ・事務局より資料説明

(意見交換)

【小浜線関連の取組みについて】

川本会長

- ・今の段階でこれは無理、これは検討のテーブルに上がる等の意見があれば挙げて頂きたい。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・可能かどうかについては、手間と費用をかければ可能であるが、費用対効果があるか今後検討する必要があると思われる。
- ・すでに各市町が考えている居住者や観光客を増やすまちづくりの取組みがある中で、小浜線ではどのようなメニューが検討可能かといったことを含め、選択していく必要がある。
- ・各市町が考えるまちづくりが提示されていない中で、単に増便、快速の話だけを挙げられても実現するのは難しい。

川本会長

- ・本格的に実施するかどうかは、市町が考えていることも含め今後まとめていく必要がある。現時点では、それがまだ具体的に見えてきていない。

小浜市

- ・クルマを利用できる人はさほど小浜線を使わないと思われる。
- ・利用客数が少ないのでバリアフリー化しないということだが、そもそもバリアフリー化していなければ交通弱者は使えなくなるという考え方もできるため、今後の高齢化も考えてバリアフリー化は検討してはどうか。
- ・自治体が設置費用を負担したとしても、JRには管理の負担が生じるものと思われる。

バリアフリー化はどうしても必要なため、少なくとも検討事項に挙げてはどうか。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・挙げられた取組みは、全く検討できないものではない。今後、費用や管理等も含めて議論して頂く必要があると思われる。
- ・勉強会ではJRが単独で行おうとした場合に考えられる課題等を挙げた。例えばバリアフリー化についても、利用者の利便性を高めるという観点から、必要な箇所もあろうかと思う。
- ・費用負担等も含め議論する中で会社として可能かどうかを検討したい。例えばバリアフリー化について、跨線橋が無理なら駅をシンプル化することや、何とかして平面で移動できるように工夫する等のアイデアも考えられるかもしれない。

野村委員

- ・上中駅にはエレベーターがあるがなぜ小浜駅にはないのかという声を聞いている。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・上中駅の駅舎は小浜線電化に伴い自治体に譲渡しており、自治体が自由通路として整備したものであり、当社が管理する駅施設としてのエレベーターではない。

川本会長

- ・今後、社会や制度の変化もあると思われるので、その中でバリアフリーは議論を進めて頂きたい。施設の物理的なバリアフリー化だけでなく、ICTに関するバリアフリー化（情報バリアフリー）もある。

野村委員

- ・小浜市から福井市へ向かう際、小浜線からの乗継ぎが不便だからクルマを使ってしまうという意見がある。小浜線から福井への直通は考えられないか。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・ダイヤとの兼ね合いもあって難しい面がある。利用ニーズがあるかどうかにもよる。接続については北陸本線中心に考えており、小浜線から敦賀駅ですべての方面、列車に接続させることは難しい。直通を望む声がどの程度あるのか確認する必要がある。
- ・また小浜線の車両は北陸本線に乗り入れできず、北陸本線の車両を乗り入れさせる場合は、車両運用上可能かどうか等を検討する必要があるこれまで直通ニーズはあまりないと認識している。

野村委員

- ・北陸本線の昼間は特急ばかりが走り、普通列車が少ない。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・利用状況に合わせてダイヤを組んでいる。特急のニーズが高いのでそれに合わせている。

敦賀市

- ・他社の乗入れについては、双方の地域にメリット、デメリットがあるが、やれるならやったほうがよい。嶺南地域に波及効果があるようにしなければならない。
- ・このような取組みについて、実施主体は今後どのようなようになるのか。

事務局

- ・実施主体は形成計画に記載する。例えば県、市町、鉄道事業者といった記載で、具体的な市町名や事業者名は記載しない。来年度、内容と実施主体のブラッシュアップをしていく。

川本会長

- ・やるかどうか（検討までか導入なのかも含め）について、どこが主体で検討を進めるのかを記載するものと理解すればよい。
- ・朝のラッシュ時の対応に関する意見が多い。増便は難しいがダイヤを調整することは可能性があるのではないか。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・現状で、可能な限り最適なダイヤに調整している。

嶺南広域行政組合

- ・輸送人員（混雑と増便・増結に関して）について、都会と地方では考え方が違うのか。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・同じ考え方であり、混雑によりお客様が乗り切れないという状況はない。その中で、学校や企業等も考慮しながらダイヤを組んでいる。行き違い等の制約がある中で、現在ある車両を最大限に使って運用している。最も乗車いただいている列車についても、混んではいるが満員ではないという認識である。

川本会長

- ・座れてあたり前という声もある。車内のレイアウトを変えるといったアイデアもある。快速列車、折り返し運行も今後検討の余地がある。
- ・資料に挙げられている各アイデアについて、乗り物を導入しても、地域がどのようにサポートするかが大事であり、セットにして考えるべき。
- ・モビリティ・マネジメント（行動変容を促す取組み）として、子供向けの乗り方教室等を実施するのは、これまで個々の市町であったが、もう少し全域的、継続的に取り組んでいきたい。
- ・できることは色々考えられる。駅名を変えるのは大変だが、愛称なら導入できるかもし

れない。今後議論していきたい。

【バス関連の取組みについて】

川本会長

- ・市町を跨ぐバスに関するアイデアについては、意見がなかったが、市町が連携して、例えば病院、買い物施設、IC等を結ぶなど、バスに関しての意見があれば頂きたい。

敦賀市

- ・敦賀市で市町を跨ぐニーズがあるか疑問を感じる。昔は敦賀市～若狭町を結ぶバスがあった。現在、敦賀～美浜町間のバスはあるが、利用客は減っている。小浜線を補完するようなバスを運行した場合、利用客を奪い合い共倒れになるのではないかと。例えば、小浜線運休時にのみ運行する代行バス（レイニーバス）についてもバス事業者が対応できるかどうか問題がある。

美浜町

- ・町民のアンケートでは、敦賀市にコミバスを使い安く行きたいというニーズがある。料金設定が課題である。若狭町方面へ行きたいというニーズはあまりなかった。小浜線と並行するので競合しないような工夫も必要と考える。

若狭町

- ・上中地域に居住の高齢者が小浜病院へ行きたいという声がある。現在のコミバスは町域を越えられないが、バスで直接行きたいというニーズが少なからずある。
- ・観光面での周遊ニーズもあると思われる。住民の移動手段と、観光客が巡るための手段とは区別し、ニーズがあるかどうかを考えていく必要がある。

小浜市

- ・広域バスはどの範囲までなのか。小浜市～敦賀市といったニーズはないのではないかと。隣接する市町を結ぶニーズはありそうである。小浜市には病院もあり市外からの利用はあるように思われる。
- ・小浜市民目線でも、若狭町のプラント2、おおい町の道の駅周辺の商業施設があり、そこを結ぶバスのニーズはありそうである。隣接する町から小浜市内の病院や商業施設へのニーズはありそうだが、バスの往復うち、片方が空車にならないように行き先等を考えなければならない。

おおい町

- ・おおい町の広域バスとして名田庄地域のバスがあり、そのバスは小浜市へ乗り入れており、一定の利用がある。
- ・おおい町佐分利地区は、おおい町の中心部よりも高浜町に近く、高浜町へ出かけやすい公共交通がほしいという声も聞くが、どの程度のニーズがあるかわからない。

高浜町

- ・広域バスの捉え方によるが、検討の対象は隣接市町をつなぐ程度のバスのことだと思っている。
- ・おおい町にあるのは大型商業施設であるためマイカー需要が高い。小浜市には病院があるので広域バスのニーズがあるかもしれない。舞鶴市へ出かける人が多いが、現在でも京都交通バスと小浜線があり目的は達成できている。
- ・それ以外では敦賀市や小浜市方面への移動が考えられるが、長距離であり、時間がかかることから利用はないと思われる。

川本会長

- ・コミバスは各自治体で閉じているが、生活圏は市町を跨ぐ場合もある。隣接する市町で調整してつなぐイメージであり、新たにバス路線を設けるのではなく、一方のコミバスを他方につなぐようなイメージだと思われる。
- ・今後、市町どうしで情報交換するなどの仕組みをつくる必要がある。

【バスのオープンデータ化、ICカード化、キャッシュレス化について】

川本会長

- ・例えばデマンドだと情報の共通化がしにくい。特に地域外から来た人には難しくなってしまう。すでにICカードを導入している西日本JRバスではどんな課題があるか。

西日本JRバス

- ・西日本JRバスは、関西圏からICカードを利用してきた人が、小浜市内ではチャージできず、バス車内でしかできないのが不便となっている。

川本会長

- ・ICカード化は費用がかかるが、今後、ICカードの利用客は増える。ICカードは便利だが、ネットを用いたサービス提供は、高齢者等にとって対応が難しくなってしまう。
- ・ハードを作るだけでなく、高齢者等の抵抗感をなくす方策を作って提供するなど、モビリティ・マネジメントを通じたサポートが必要である。

【観光関連の取組みについて】

川本会長

- ・バスと小浜線の組合せで周遊するという意見があったが、バスと小浜線のダイヤがうまくつながらなくても、うまく工夫して滞在時間を増やしてもらうような考えもある。

小浜市

- ・お客様が来なければどうにもならない。各市町とJRも含めてこれから協議していかなければならない。過去に国宝を巡る周遊バスを小浜市内で運行していたが乗客は少なかった。
- ・どこにどのように観光客を呼び込むかが重要。観光客は目的を持ってくるので、観光地

と観光地を結ぶだけでは客は来ない。

川本会長

- ・嶺南地域全体の観光に関する戦略等はあるのか。

高浜町

- ・これまでは各市町中心でしか考えていなかった。広域周遊観光に関する話をしているところである。観光の取組みを一市町で完結するのは無理で、また一市町では小さい。
- ・各市町に特徴があり、若狭エリアを周遊する観光を近隣の市町間でまかなっていきたい。観光地は必ずしも駅前にあるとは限らないため、京阪神エリアからの観光客はクルマで来るケースが多く、その他はJRが多いように思う。新幹線が開業すれば、バスや自転車など新しいニーズも出てくるかもしれない。

川本会長

- ・観光関連は、市町単独ではなく広域的な話が多くなる。全体的にどのようにしていくかを、この会議ではなく別なところでも整理し、その方向性にこの取組みを合わせていくことも必要。

小浜市

- ・全くないわけではなく、若狭湾観光連盟、嶺南振興局で一体となってやろうという動きにはなっている。

川本会長

- ・そういう動きがあることは記載すれば良いのではないか。そのような単位が実施主体になるということもあるのではないか。

小浜市

- ・団体ではなく個人旅行者が多いと思われるが、タクシーは公共交通に含まれるのか。

川本会長

- ・公共交通に含まれる。

小浜市

- ・周遊するのにバスを利用して頂くのは無理ではないか。タクシーに補助したほうが安価なのではないか。定時路線バスに観光客が乗るとはあまり思えない。
- ・小浜市の観光スポットを巡ると時間もかかる。高速バスの方がまだ可能性はあると思われる。ツアーで小浜線に乗ってもらい、バスで周遊させるのは考えられる。

高浜町

- ・レンタカーも一手段としてあるのではないか。ただし周遊の客層が異なるかもしれない。

- ・新幹線が敦賀まで開業すれば、関西周遊の中に嶺南地域での周遊が含まれなければならない。現在、発売されている関西ワンデーパスに嶺南地域は含まれていない。

福井県

- ・タクシーは除外しておらず、公共交通に含まれている。今後の取組みとして上がってきていないだけである。三方五湖周辺の観光タクシーもあり、現実的に役割はある。レンタカーに類するものとしてカーシェアが挙げられる。

小浜市

- ・例として食事のできる観光列車が挙げられているが、食事中に若狭エリアを通過してしまいそうである。食事することまでなくてもよいのではないかと思われる。
- ・指定席は時間と空間をお金で買うものだが、小浜線にはない。アイデアとして、小浜線に指定席を設けて、快適さを買うような仕組みがあってもいい。例えば、ベンチシートは辛く、お金を払ってもリクライニングシートに乗ってもいいと考えている観光客もいるのではないか。また、出張のビジネス客の利用もあるかもしれない。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・今後、色々なことについて可能かどうかの検討はできる。どの程度のニーズがあるかも見ながら検討したい。

川本会長

- ・前回にまとめられた調査結果も押さえる必要がある。小浜線の調査結果では、駅から徒歩圏の利用客ばかりだった。
- ・例えば、各市町で、駅の近くに人を住ませる、人を集めるといった取組みがあれば、施策の考え方の中に入れておくべき。実現される都市計画のハード面の計画があれば、連携する必要がある。

事務局

- ・今回の資料に挙げた細かい事項を全て実施するわけではなく、今後、議論と検討を行いながら、つめていきたい。また、今後も、各市町の情報やご意見を頂くこともある。是非やりたいといった意見があれば、個別にでも頂きたい。
- ・次回は来年度となり開催時期は未定。取組みの内容や実施主体などを決めていきたいと考えている。

4 閉会